

平成 21 年 4 月 30 日
農林水産省改革推進室

国民視点に立った予算の作成について
(事業のわかりやすい P R 資料の作成作業における反省を踏まえて)

1 明らかになった課題

事業のわかりやすい P R 資料の作成作業を通じ、以下の課題が明らかとなった。

(1) P R 資料に、

- ① 利用者の悩みに対して解決策が端的に提示されておらず、何をすればどのような支援が受けられるか具体的にわかりやすく示されていない、
- ② 日常会話で用いない単語、表現が使われている、
- ③ 身近で信頼できる問い合わせ先が目につきやすい場所に記されていない等 P R 資料として当然満たすべき要素が盛り込まれてない。

(2) これまで事業を担ってきた地方公共団体、公益法人等の変化や事業の性格に応じた事業の推進体制が十分構築されていない。

(3) 幹部職員が、事業の趣旨は説明できても、具体的な事業の内容を十分説明できないケースがある。

2 原因

(1) 事業を「商品」と考えて、国民に使ってもらおう、役立ててもらおうとする意識を持って予算の検討を行っていない。

(2) 具体的には、検討の過程で、農林水産業者や食品事業者、地方公共団体等が本当に困っていることは何か、これに対して具体的に何をしなければならないかという検討が十分行われない一方、背景事情の説明や仕組みの検討に重心が置かれてしまっている。

- (3) この結果、事業を構築する上で最も肝心な積算が担当者任せになり、対外的な説明を行う幹部職員が十分にそれを理解していない。また、対外的な説明資料も、事業の趣旨を書くことに分量を割くものとなっており、積算内容を説明できる資料を持ち歩かない例が多い。

3 今後の対応

- (1) 官房要求に当たっては、積算を重視するとともに、わかりやすい事業のチラシなど、現場説明向けの資料を常に添付することをルール化し、省内検討の段階から、「国民に使っていただける役に立つ事業を作る」という意識を幹部・一般職員を通じて持つようにする。
- (2) 予算関連資料を大幅に見直し、現在の予算の「白本」に、PR用のチラシの長所を取り入れるものとする。このため、PR用のチラシについても、夏の概算要求時及び概算決定時に速やかに配布できるよう準備するものとする。